

調査研究および情報提供事業等に必要な経費

情報センター事業費

1. 催し等事業費

- (1) 国内連携促進

2. 文化資料事業費

- (1) 定期刊行物
- (2) 年次報告
- (3) インターネット・ホームページ

3. 調査研究費

- (1) 図書館・情報リソースセンター事業
- (2) 国際交流顕彰事業（基金賞・奨励賞）
- (3) 国際交流顕彰事業（地球市民賞）

情報センター事業費

1. 催し等事業費 (1)国内連携促進

国内の国際交流活動の振興と国際交流団体のネットワーク化を目的とした各種セミナーを開催する。
合計額 10,135,262円

	事業名	国	期間	事業内容
1	国際交流フェスティバル出展	全世界区分困難	05.04.01～ 06.03.31	全国各地の国際交流フェスティバルにブースを出展。仙台国際センターまつり、グローバルフェスタJAPAN2005、とちぎ国際ナショナルフェスティバル2005、ワールド・コラボ・フェスタ2005、地球市民どんたく、横浜国際フェスタ2005、むさしの国際交流祭、さいたま新都心街びらき5周年記念「秋祭り&国際フェア2005」、ヨーロッパ秋まつり in 日比谷、ワンワールドフェスティバルなど計8都市10回の国際交流フェスティバルへ参加
2	地域との連絡調整	全世界区分困難	05.04.01～ 06.03.31	各地の国際交流協会等の団体との連携強化をはかることを目的に、拠点県、拠点都市数か所にて定期的に連絡をとり、地域のニーズ等を把握することから始め、共同事業の企画開発等の可能性を探った
3	第3回国際交流協力実践者全国会議	全世界区分困難	05.08.27～ 05.08.28	国際交流・協力の現場に携わる全国の関係者が一堂に会して、国際交流・協力活動の現状認識を共有するとともに、問題意識を深めつつネットワークを構築することを目的とした。また、日本社会全般に、本事業は3年を一区切りとしたパイロット事業であり、国際交流・協力活動の意義を広くアピール。今回は3年度目の開催
4	日・EU創造都市交流シンポジウム	西欧地域区分困難	05.11.25～ 05.11.26	「日-EU市民交流年」事業の一環として企画された「EU-日本創造都市交流2005-Arts for Community Growth and Development-」のなかで国内のアートNPOおよび地方公共団体がEU6カ国を訪問。このシンポジウムではその成果に基づいて視察先の代表的なプロジェクトの関係者を招へいし、EU各国の創造都市戦略の実態を学ぶとともに、アートが都市経営のソフトウェアとして機能し、地域や市民に活力を与えるための課題や今後の方向性などについてディスカッションを行なった

2. 文化資料事業費 (1)定期刊行物

広く国際交流に関心のある研究者、芸術家、一般を対象とする和文定期刊行物『遠近(をちこち)』と、国際交流基金フェロー経験者など日本に関心を有する海外有識者に向けた英文ニュースレターを、それぞれ隔月にて発行する。
合計額 51,966,747円

	資料名・書名	発行日	発行部数	事業内容
1	遠近5号	05.06.01	6,000	定期刊行物『遠近』(6月1日号)の発行。特集は、「知られざるアラビア世界」
2	遠近6号	05.08.01	6,000	定期刊行物『遠近』(8月1日号)の発行。特集は「日本語で話しませんか」
3	遠近7号	05.10.01	8,000	定期刊行物『遠近』(10月1日号)の発行。特集は「アートが世界を変える」
4	遠近8号	05.12.01	6,000	定期刊行物『遠近』(12月1日号)の発行。特集は「市民が広げる日-EU交流」

	資料名・書名	発行日	発行部数	事業内容
5	遠近9号	06.02.01	7,000	定期刊行物『遠近』（2月1日号）の発行。特集は「日中交流を歩む人たち」
6	遠近10号	06.04.01	6,000	定期刊行物『遠近』（4月1日号）の発行。特集は「世界で愛される日本食」
7	英文ニュースレター6月号	05.06.01	5,000	「The Japan Foundation Newsletter」6/7月号の発行
8	英文ニュースレター8月号	05.08.01	5,000	「The Japan Foundation Newsletter」8/9月号の発行
9	英文ニュースレター10月号	05.10.01	5,000	「The Japan Foundation Newsletter」10/11月号の発行
10	英文ニュースレター12月号	06.12.01	5,000	「The Japan Foundation Newsletter」12/1月号の発行
11	英文ニュースレター2月号	06.02.01	5,000	「The Japan Foundation Newsletter」2/3月号の発行
12	英文ニュースレター4月号	06.04.01	5,000	「The Japan Foundation Newsletter」4/5月号の発行

2. 文化資料事業費	(2) 年次報告
------------	----------

年度ごとに総括を報告する年報を発行する。

合計額 18,543,283円

	資料名・書名	発行日	発行部数	事業内容
1	2004年度版年報(和文)	05.10.01	7,000	国際交流基金の2004年度（平成16年度）事業に関する和文年報の作成
2	2004年度版年報(英文)	06.03.31	5,000	国際交流基金の2004年度（平成16年度）事業に関する英文年報の作成
3	2004年度事業実績	06.03.31	500	国際交流基金の2004年度（平成16年度）事業に関する事業実績の作成

情報センター事業費

2. 文化資料事業費 (3) インターネット・ホームページ

ホームページを通じて、プログラムガイドラインや国際交流基金の各種出版物も含めた国際交流基金の各種事業の情報や、国際文化交流に資する各種情報の提供を行なう。

合計額 18,461,242円

	事業名	期間	事業内容
1	国際交流基金 ウェブサイトの 運営	04.04.01～05.09.30	国際交流基金に関する各種情報、国際文化交流関連各種データベース、国際交流基金公募プログラムガイドライン等をインターネット上で提供。 URL： http://www.jpf.go.jp/
2	メールマガジン	05.04.01～06.03.31	ジャパンファウンデーションの事業に関する情報をメールマガジン（和・英）で配信

3. 調査研究費 (1) 図書館・情報リソースセンター事業

国際交流に関する情報の照会および日本に関する情報の照会に対応するための情報リソースセンターとして図書館を運営する。

合計額 135,203,018円

	事業名	蔵書数	入館者数
1	情報リソースセンター運営	図書：34,032冊（外国語：27,532冊、日本語図書：6,500冊）、雑誌：400タイトル、新聞：8紙	5,072名（2005年4月～2005年11月）

3. 調査研究費 (2) 国際交流顕彰事業（基金賞・奨励賞）

学問、芸術その他の文化活動を通じて、国際文化交流に特に顕著な貢献があった個人、団体などに対しその功績を顕彰する。

合計額 26,006,872円

	種別	受賞団体名	受賞者名	現職	国	事業内容
1	国際交流基金賞	-	宮崎駿	アニメーション映画監督	日本	アニメーションを中心とした芸術活動を通じて、日本文化を普遍的に伝え、その独自のメッセージ性が世界中の若者たちの心をとらえた。その多大な功績に対し、国際交流基金賞を授賞
2	国際交流奨励賞・文化芸術交流賞	フィリピン教育演劇協会	-	-	フィリピン	演劇を通しての民衆啓発やコミュニティ形成への取り組み、および日本をはじめ多くのアジア諸国の芸術・市民団体とのコラボレーションの業績を称えるとともに、アジアの芸術ネットワーク形成への今後の貢献を期待して、国際交流奨励賞・文化芸術交流賞を授賞

	種別	受賞団体名	受賞者名	現職	国	事業内容
3	国際交流奨励賞・日本語教育賞	中国日語教学研究会	-	-	中国	中国の諸大学における日本語教師の統括的組織として指導力を発揮し、日本語教育の質の向上に貢献してきた実績を称え、東アジアに広がる日本語教育分野のさらなる連携強化における役割を期待して、国際交流奨励賞・日本語教育賞を授賞
4	国際交流奨励賞・日本研究賞	-	タバッサム・カシミーリー	元大阪外国語大学ウルドゥー語教師、ウルドゥー文学研究者	パキスタン	日本におけるウルドゥー語・ウルドゥー文学研究の促進に尽力された業績を称え、日本とウルドゥー語文化圏の学術・文化交流および日本とパキスタンとの相互理解促進におけるさらなる活躍を期待して、国際交流奨励賞・日本研究賞を授賞
5	選考委員会	-	-	-	全世界区分困難	平成17年度国際交流基金賞・国際交流奨励賞の受賞者を決定するために、奨励賞部門別分科会および選考委員会を開催

3. 調査研究費	(3) 国際交流顕彰事業（地球市民賞）
----------	---------------------

国内各地で行なわれている地域に根ざした国際文化交流活動を促進するために、この分野で活躍している国内団体、個人を顕彰する。

合計額 15,226,022円

	受賞者(団体)名・事業名	場所	事業内容
1	特定非営利活動法人 チェルノブイリへの かけはし	北海道札幌市	旧ソ連のチェルノブイリ原発事故で被災したベラルーシ共和国の子どもたちを日本に招へいし、北海道で1カ月の転地療養をさせる「里親運動」を14年にわたり実施している同団体に地球市民賞を授賞
2	浅賀正治（個人）	茨城県桜川市 （旧岩瀬町）	私費を投じてジンバブエやブルガリアからの石彫刻家を招き、石彫を通じた国際文化交流を実施している同氏に地球市民賞を授賞。個人から始まったアーティスト・イン・レジデンス事業が地域の自治体や地場産業からの支援を得て、広がりを見せている。
3	Genki青年会	高知県高知市	高知県に配属されたJET青年の個性と才能を活かした土佐弁ミュージカルの創作・上演。上演にあわせて募金活動を行っており、県内の日本人の語学留学希望者への助成金に充当している同団体に地球市民賞を授賞

情報センター事業費

	受賞者(団体)名・事業名	場所	事業内容
4	『クロスボーダー宣言』発行		<p>賞の制定20周年を記念して、これまでのこれまでの地球市民賞（旧地域交流賞・地域交流振興賞）受賞団体の活動をとりまとめ、単行本として出版。</p> <p>留学生支援、日本語教育支援、文化・芸術交流、青少年交流、国際協力、国際理解教育、多文化共生支援、福祉、地域活性、ネットワーク形成など多様な活動を行っている過去の受賞団体61団体の活動紹介に加え、7人のキーパーソンへのインタビューを掲載</p>